

澤野大樹 仙台セミナー第十七章 『鏡（蛇身）と縄文スピリット』

【講演へのメッセージ】 澤野 大樹

これまで「縄文」や「縄文スピリット」をお話ししてきた中でずっと通底してきたものとは、「本音」と「建前」でした。日本に居住し、日本語の言霊を自在に駆使できる人たちの奥底には一切の欠損の無い「縄文スピリット」、つまり、「本音」が秘められ隠されているということをお伝えしてきました。そんな「本音」はいつしか、おもに二重のマインド・コントロールによって封印されてきました。「二重」の第一は「大日本帝国」によるもので、第二は「戦後 GHQ 連合軍」によるものでした。皮膚の切り傷と同様に、止血し傷が治る前に絆創膏を剥がしてしまつたら、傷口はまた広がってしまう。絆創膏を剥がすのは、その下の皮膚の傷がきちんと治癒してからでないといけな。これと同様に、私たちが今いきなり「戦後 GHQ 連合軍」によるマインド・コントロールを剥がしてしまつたら、それこそその下にある傷口——大日本帝国によるマインド・コントロール状態が再び牙を剥いてしまう。ならば、何よりも前にその傷口である「大日本帝国によるマインド・コントロール」を解かなければならない。それが無事に解除されて始めて「絆創膏」である「戦後 GHQ 連合軍」によるマインド・コントロールを解くための準備が整う。

「本音」——本当の縄文スピリットを復活させるためには「手順」があるのだ。この手順を黙殺したままで伏在させられてきた縄文スピリットの再起動は有り得ない。現在の日本では、私たちの奥底に伏在させられている「本音」をさらに深く封印するために、「建前」など遥かに超越し、「虚構」「隠蔽」「改竄」によって人々を拘束している。「ウソ」はそれを吐いた者自身の身体を蝕んでいく。そして、その「ウソ」に立脚して構築されてしまった社会や個人の人生もいずれそれを蝕んでいく。身体を構成する細胞、原子核、素粒子も、本音ではなく「建前」を選択し、自らの不正コピーを生み出し、「私ではない私」という虚構の人物——しかもそれを無自覚に行うこととなる。個人の意識はフラクタルに社会、国、地球へと拡大し反映されていく。日本は「鏡（蛇身）の国」として雛形的な特異性をもっているならば、これはきわめて由々しき事態といえる。私たちが精神修養を行ったり、自由自在な人生を歩む際に、この「建前」が、その純粋な作用を妨害する。「鏡」が滞れば、Redeemer(救世主)も正常に機能できない。

いよいよ最終局面に近づいてきた「日本」および世界および地球であるが、一体何が「最終局面」なのか、また、現在のこの日本がいかにか「瀬戸際」であるのか、そのことについて最新時事解説を含め、たつぷりとお話したいと思います。

「縄文」とは、ムラを作って群れる仲良しクラブとは正反対、逆位相にある末恐ろしい境地である。

この縄文の本質にまで迫ることができたら嬉しく思います。

澤野大樹（さわの・たいじゅ）さんのご紹介 1971年東京生まれ INTUITION <http://www.intuition.jp/>
 日本大学芸術学部映画学科卒業。たま出版、たまメンタルビジネス研究所にて、日本のスピリチュアル界の草分け的存在であった瓜谷侑広氏の下で研鑽を積む。独立し、1997年より独自の哲学的視点を綴った『情報誌 INTUITION』の発行が始まる。以来、17年間経った今でもその執筆は続いている。この『情報誌INTUITION』の執筆が、私の活動の基礎中の基礎であり、ここから様々な企画などに派生していくことになる。たま出版時代から、成功法則、思考現実化法、サブミナル、マインドコントロール、玄米菜食、魔術、超能力開発、ヒーリング、占い、瞑想、自己催眠術、パワースポット、秘密結社、陰謀論など、ありとあらゆることを体験し、そのことを踏まえた上で書かれる『情報誌INTUITION』は、客観的で多次元の非常に稀有な形態を持っている。執筆している本人に、「これから何を書くのか？」ということに対する明確な意識は存在せず、執筆しながら本人が一番驚き、感動し、喜ぶというこれまた稀有な創作過程となっている。それゆえに、完成された情報誌は、もはや「この世のものではない」と言われている。通常想定される「情報誌」というものとはまったく違い、筆者は、この情報誌の執筆を、ひとつのストーリーを紡ぎ描く手段であると捉えている節がある。いきなり出会うの初見では何が書いてあるのかわからない。しかし、じっくり何度も読んでいくうちに、後になってからジワジワと効いてくるという、不思議な感覚を呼び覚ます珍しい情報誌となっている。そんな筆者だが、たまに勉強会や講演会なども行っている。講演は、すべての文言が一字一句逃さずに、講演直前に活字化され、講演原稿として用意される。講演と同時に 100%完璧な活字版も完成しているところが大きな特徴である。これまでの講演会は、すべて 100%活字で保存されている。また、このインターネット全盛期の現代において、『情報誌INTUITION』は、A4 用紙による紙媒体による発行だ。なぜならば、現代においても、国家間の取り決めや条約の調印式は必ず紙の書面に万年筆であるように、歴史に残るものを創造する場合は、紙に記す必要があると考えているからだ。紙ならば 1000 年経っても残るからだ。『情報誌 INTUITION』をぜひご購入ください。 著書「瀬織津姫システムと知的存在MANAKAが近現代史と多次元世界のタブーを明かす」文芸社

- ・日 時: 2018年7月22日(日) 15時半～18時頃 (開場 15時)
- ・会 場: あわの里 天命舎 仙台市青葉区国分町 3-9-32 仙台 ATOWAビル 5階 022-399-7674
- ・参加費: 5000円 (仙台テンメイ会員以外&当日参加 5500円) 参加費は当日支払下さい。 定員 : 20名
- ・懇親会: 講演会終了後、澤野さんを囲んで懇親会を開催します。参加希望の方は申込下さい。
- ・申込み: 参加申込書に記入し、FAX、電話、Emailで申込み下さい。 仙台天命塾 HP <http://genkiup.net/>
- ・問合せ: 仙台天命塾 大久保 TEL/FAX 022-279-1024 090-8786-7300 E-mail atowa999@gmail.com

仙台天命塾 第318回オープンセミナー 参加申込書
 FAX 022-279-1024

講師 澤野 大樹さん
 2018年7月22日(日)

氏名		会員	TEL	
E-mail			FAX	
住所	〒			懇親会参加